

7月27日（土）小平市中央公民館にて 堀孝弘さん講演会 「スーパーのプラ包装は減っている？ 全国及び小平の調査でわかったこと」

小平・環境の会は、以前にも単独でスーパーマーケットやコンビニでのレジ袋削減やはだか売りについて調査したことがあり、昨年、京都のNPO法人環境市民の堀孝弘さんの呼び掛けに応じ、小平市内でスーパーマーケット10店舗の環境調査に協力した。その関係で、京都から堀さんがお越し下さり、報告会を開く事が出来た。その内容について報告したい。

堀さんが、この調査をするに至った経緯は、フランスで「循環経済法」ができ、2022年1月より野菜・果物のプラ包装が禁止になり、順次対象青果物を拡大していることからだった。

世界中の海に浮遊するプラごみが魚より多くなるのではないか？果たして、これでプラスチックの問題は解決するのか？との疑問を持ったそうだ。

今から4年前に、日本でもようやくレジ袋が有料となり、温室効果ガスの削減目標ができ、カーボンニュートラル実現に向かって世界中が歩き出したが、日本のスーパーの実態はどうだろう？

2022年11月に京都市内でスーパーの調査をしてみた（実施主体：京都市ごみ減量推進会議）。

4店に1軒の割合で62店舗（20チェーン）を調べてみたが（ボランティア50名の協力）、フ

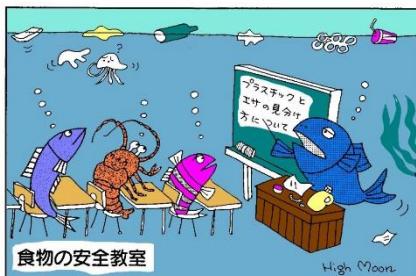
ランスでははだか売りが63%なのに対して、日本（京都）では7～8割は包装されて売られて

いた。この結果から、地方によって差があるかもしれない、との疑問を持ち、全国調査をするこ

とにしたのだそうだ。この結果、地域別のはだか売りでは、東高西低の傾向が見られた。その中

でもバナナでは、どこもが包装を実施しており、これははだか売りができるはずとの疑問をいだ

いたとの事。



ハイムーン氏作画。営利目的でなければ、誰でも絵を使えるよう正在している。

この中で小平市は（小平での報告のために、小平市を抜き出してくれていた事に感動！）他の地域に比べてわずかではあるが、はだか売りが多いとの結果（本当にわずか…）を導いてくれたことに感謝したい。また、日野市では、「容器包装お返し大

作戦」と称して、買った場所に容器を返却する方針を打ち出して



ヘタヘタ本屋のホームページ

いるそうだ。

一方、野菜のはだか売り現場近くに置いてあるプラスチック製袋や、サッカーハーフ近辺においてある巻き取り式のプラスチック製袋近辺には、「必要量のみお取り下さい」との記載がなく、人によってはたぶん自分が使う以上のプラ袋を取って行く可能性が高い。ここには「必要量のみ～」の表示が必要なのではないか？との疑問を持たれたとの事。その他、実際に調べた結果、様々な取り組みをしている店舗、チェーンもわかり、それらの取り組みについてはお知らせもし、今年もスーパー調査を実施する予定との事だ。

今度は更に誰でも、個人でも参加できるように、スマホから QR コードを読み取り、やはり 9 月～11 月に調査を実施する予定だという。

私たちは今年の調査にも参加してみたいので、その方向で話し合いを進める予定だ。（島）